

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400265		
法人名	社会福祉法人 ふるさと会		
事業所名	グループホーム 福寿の家		
所在地	高知県吾川郡いの町中追2598-1		
自己評価作成日	令和元年10月1日	評価結果 市町村受理日	令和2年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で唯一の老人福祉施設として地域に支えられ、地域を支える事業所を目指しています。高齢化の進む過疎地域の中で、地域の祭りや行事に参加して、交流を深めています。また、運営推進会議を通じて、民生・児童委員、区長等と事業所運営を含めた、これからの地域活性化のための話し合いを行っています。

事業所の運営としては、利用者が、豊富な自然環境の中で様々な活動や家事などの共同作業を通じて、いつも楽しく、生き生きとした生活を送れることを目標としています。また、事業所内にこもることなく、できるだけ外に出て交流を深め、生きがいを持ち元気に過ごしてもらえよう、心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&jkyosvoCd=3972400265-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和元年10月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地区唯一のグループホームであり、渓谷の中の温泉旅館を改装した2階建ての建物で、周辺の四季折々の風景を楽しみながら、ゆったりと、穏やかに過ごすことができる環境にある。

事業所理念として、「利用者の主体性を尊重し、互いに助け合い認め合い、安心と満足、生きがいと喜びを感じるホームの実現」を掲げて、日々のケアに取り組んでいる。利用者一人ひとりの持つ力を発揮できる生活が継続できるよう、身の回りのことや家事、畑づくり等に参加してもらえようとする支援をしている。

また、本年度は地域交流を目標とし、地域の祭りや敬老会、体操等の行事に積極的に参加したり、地域の小中学校の児童生徒の訪問を受けることなどで、利用者の地域交流の機会が増えている。運営推進会議では喫緊の課題である災害対応等について、活発かつ率直な意見交換が行われており、地域と事業所がともに支え合う関係づくりを目指す事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、ホールに基本理念、基本目標を掲示し、職員全員が1日に何度も確認し、意識を持ってサービス提供に努めている。	理念、目標を玄関やホールに掲示し、職員の名札の裏にも明記する等の意識づけを行っている。また、ユニット毎に利用者本位のケアが行われているかを振り返り、理念の実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回、地元の小学校跡地において母体法人系列の学校法人と一緒にお祭りを開催し、大勢の地域住民が参加してくれている。また、地域での体操に参加したり、花見や敬老会に参加して、交流を深めている。	近隣に民家がない立地条件だが、地区唯一の事業所として地域の祭りや敬老会等の行事に積極的に参加し、事業所には地域の小中学校の児童生徒の訪問があり、前年より地域交流の機会が増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が買い物や外出に出かけたり、事業所や母体法人の行事などの機会を通じて地域住民と交流し、認知症の理解を深めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所運営や利用者の状況などを詳細に報告し、利用者や、地住住民、行政代表の委員から様々な意見を出してもらい、畑作業や防災対策等、サービス向上につなげている。	民生委員、区長、利用者、行政関係者が参加し、報告事項や活動目標、災害対応等について活発に意見交換をしている。声かけをするものの、家族の参加は得られていない。議事録は分かりやすく記録されているが、家族への送付が行われていない。	議事録を家族に送付するとともに、その機会等を通じて会議への参加を呼びかけることを期待する。また、目標達成計画の進捗状況を議題にして、出された意見を改善に活かしていくことを併せて期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者に運営推進会議に参加してもらい、また、困ったことなどは、その都度町担当者や、地域包括支援センターに相談している。また、年2回開催される町のグループホーム連絡会にも参加して、意見交換を行っている。	運営推進会議には必ず町担当者又は地域包括支援センター職員の参加があり、情報共有や協議が行われている。不明な点はその都度電話や直接出向いて相談し、町担当者からも問い合わせがある等、日常的に協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は母体法人内外の研修に参加し、身体拘束をしないケアについて学習するとともに、代表が母体法人の身体拘束委員会に参加して、伝達講習をしている。日中は玄関の施錠はせず、安全に配慮しながら、利用者が自由に行動できるようにしている。	研修や身体拘束防止委員会への参加により、職員全員に身体拘束をしないケアを周知し、実践に努めている。日中玄関は施錠していないが、外出傾向のある利用者は特にない。入所時には、家族に身体拘束をしないリスクを説明して、同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止についての勉強会などに参加して、理解を深めている。また、職員間でコミュニケーションをとり、虐待につながりやすいストレスの軽減や、メンタルの維持にも気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、勉強会、研修会に参加して学習するとともに、必要に応じて行政担当者の助言も得ながら、制度が活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や支援内容について十分時間をかけて説明し、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を置いたり、第三者委員を委嘱するなど、いつでも意見や要望を出してもらえるようにしている。また、2ヶ月に1回の事業所便りや、ケアプラン更新時などでは、意見や要望を出してもらえるよう呼びかけている。	利用者からは日々のケアの中で、家族からはケアプラン更新時を中心に、面会時や電話で意見や要望を聞いている。家族からは、外出や歩くこと、水分補給の要望があり、ケアに取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との個人面談を年2回行っている。他にも個々に話を聞いたり、職員会の中で意見が言える環境にある。	管理者は、職員が話しやすい雰囲気づくりに努め、日常業務の中やユニット会で職員の意見を聞いている。職員は年度毎に個人目標を設定しており、個人面談でも意見を聞いている。利用者の受け入れについては、ユニット毎に職員と話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の消化や休憩時間の確保等、職員が働きやすい環境をつくるために、職員が管理者に話しやすい距離感を保つよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に資格取得を勧めたり、機会あるごとに内外の研修会へ参加できるよう、勤務扱いにする配慮を行い、職員資質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町のグループホーム連絡協議会の勉強会などに参加したり、他の事業所との交流を通じて、サービスの向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや生活環境、故郷の思い出などを十分聞き取り、職員間で共有するとともに、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見を傾聴し、時間をかけて聞き取りを行って、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望や情報をしっかりと聞き取り、必要なサービス提供の検討や、対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者と家事、食事、買い物、趣味活動などを一緒にすることにより、時間を共有し、協力し合いながら生活を送ることで、信頼関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を伝え、家族に本人に関する困りごとを相談して、アドバイスを得ている。2ヶ月毎に担当職員から写真入りの便りを送り、利用者の様子を身近に感じてもらえるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で行きつけの美容院に行ったり、故郷へのドライブにでかけたりと、楽しめる機会をつくるよう支援している。	利用者一人ひとりの馴染みの関係は、入所時や日々の生活の中で把握し、家族の協力を得て馴染みの美容院や自宅周辺へのドライブをしている。職員とともに趣味の手芸の材料を行きつけの店に買いに出かける等、馴染みの人と場の関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際には同じテーブルを囲み、毎日利用者全員で体操を行い、行事なども全員参加に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長引き退所となっても、経過を見守る支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々のケアの中で本人の思いや暮らし方の希望を聞くように心がけ、把握に努めている。また、機嫌や表情の変化などにも気を配り、職員同士で話し合いながら、本人の思いや暮らし方の希望について検討している。	日々のケアの中で、言葉や表情から利用者の思いや意向の把握に努め、職員間で話し合っ共有している。入所時に家族が記入した思いや意向の記録にその後把握した内容を追記したものはないが、変化がわかるよう新たな記録様式を検討中である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時には家族、本人に十分な聞き取りや、問いかけることで、いろいろな情報の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	部署会、介護記録申し送り、連絡簿などを活用して、職員間の情報共有を図り、利用者一人ひとりの状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の訪問時に意見をもらい、担当者会議を開催して、3ヶ月毎にケアプランを更新している。本人、家族の意向に沿い、本人に最も適切なケアプランとなるよう努めている。	3ヶ月毎のケアプラン更新時には、家族面会や電話で利用者、家族の意向を聞いている。担当者はモニタリングとアセスメントを行い、カンファレンスは職員全員で行っている。また、利用者の状態に変化があれば、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきの情報を職員全員で共有して、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズを把握し、できるだけサービスに反映するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での買い物、地区開催の行事、学校で開催される祭りなどへの参加を通じて、利用者が日々楽しく、豊かな生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が月2回あり、必要に応じて歯科医師にも往診してもらって健康維持の環境をつくるとともに、状態の異変時には、職員が付き添って医療機関を受診している。	入所時に利用者、家族の同意を得てかかりつけ医は協力医とし、月2回の往診を受けている。母体法人の看護師が毎週健康管理に訪問し、協力医等と連携している。他の医療機関受診時には、大半が職員が同行支援しており、受診情報は職員間や家族で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の看護師の訪問看護が毎週あり、利用者に変わったことがあれば、その都度相談して、連携を密にとり健康維持に努めるとともに、適切な指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には、情報提供書のほか、伝わりにくい部分は同行職員から直接説明している。入院後も、電話連絡で経過を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化への対応方針を説明し、十分な理解が得られるようにしている。また、事業所が遠隔地にある特性についても納得してもらい、家族の協力が必要なことと、事業所支援の限界についての理解をお願いしている。	入所時に重度化指針を説明し、事業所の立地条件等を踏まえて対応できること、できないことの同意を得ている。看取りの希望者はなく、看取り実績もないが、職員は母体法人の看取り研修にも参加し、可能な限りの対応をすることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、母体法人内外の研修会などに参加して、急変時などに慌てないよう、実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間、昼間を想定して、避難消防訓練を年2回実施している。また、運営推進会議でも災害時の対応についてアドバイスを得ている。	運営推進会議メンバーの地区長の参加を得て、夜間想定も含めた年2回の防災訓練を実施し、避難方法のアドバイスをもらっている。運営推進会議では災害時緊急連絡網、備品の整備等の意見交換をしている。非常用食料品等は3日分備蓄しているが、補充が必要な物品がある。	事業所防災訓練に家族や住民の参加を得るとともに、地域防災訓練に職員等が参加し、相互理解を深めて連携体制整備が図られることを期待する。また、備蓄品の定期チェックと、必要量の確保を併せて期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライドを守り、その人らしい生活ができるよう配慮するとともに、機会あるごとに、職員間で言葉かけや、利用者との関わり方について話し合っている。また、不適切なケアが見られたときには、管理者がその都度指導している。	利用者の自尊心やプライバシーを損ねないよう、母体法人の研修や日々のケアの中で機会あるごとに職員間で話し合い、周知徹底している。ケアで不適切な行為がある場合には、その都度管理者が指導している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給にも選択肢を入れ、食事メニューも事前には作らず、日々利用者の希望に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を大切に、個々のペースで過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを職員と一緒に考えたり、2ヶ月に一度散髪をしたりして、身だしなみを整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ利用者の好みの食事が提供できるようにし、食事の準備や配膳、下膳、食器洗いなどを利用者と一緒に行うよう、声をかけている。職員も一緒に食事をとり、会話が弾む楽しい時間になるように努めている。	職員は利用者の好みを把握し、当日の献立を考え、食材は地元商店に注文し、週1回配達してもらっている。利用者個々の力に合わせて食材の下準備、調理、配膳、後片付けまでを一緒に行っている。職員も一緒に、和やかな雰囲気の中で食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をチェックシートで確認し、必要量が摂取してもらえるように工夫して、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力を見極め、声掛け、見守り介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、利用者一人ひとりの習慣に合わせて、声掛けや時間誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。	個々の排泄習慣を把握し、排泄チェック表を利用して定期的な声掛けでトイレ誘導を行っている。毎日の体操や、歩行、下肢筋力アップ運動を積極的に行い、排泄の自立支援に努めている。布パンツ利用者は11名で、自立している利用者が多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の体操、水分摂取を意識して、便秘の予防に努めている。また、チェック表を活用して薬を調整し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる範囲で利用者の希望に合わせた時間帯に入浴したり、また、入浴剤を使用したりして、入浴を楽しんでもらっている。	利用者の希望に応じて、毎日でも入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者は数名いるが、排泄時に合わせて誘導したり、声かけを工夫する等して、入浴につなげている。全員が2日毎の入浴ができています。入浴剤やゆず湯にする等の工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身状態を把握し、無理のないように安眠や休息ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が確実に服薬の情報を把握し、申し送りや職員会で再確認したうえで、症状の変化も見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味、楽しみを日ごろの関わりの中から把握し、職員間で共有して、利用者一人ひとりの気分転換につなげている。また、声掛けにより、個々に合った作業にも参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地理的な制約があるため、極力事業所にこもらないよう機会あるごとに外出支援をし、家族にも協力してもらっている。	近隣への日常的な散歩は少なく、できるだけ事業所に閉じこもらないよう声かけをしているが、ホール内で過ごす利用者も多い。月2、3回は希望に合わせて買物、ドライブ、夕食等の外出支援に努めており、家族の協力で出かける利用者もいる。	利用者一人ひとりに合わせて外気浴や散歩を行うこと、庭での畑作り、メダカや鯉の餌やり等、短時間でもよいので、日常的に屋外で楽しみながら過ごせる機会をつくることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持、使用についての支援をしていきたいが、利用者の状態や家族の要望などもあり、できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望するときには、電話を掛ける支援もしているが、積極的な支援には取り組めていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内で不快な思いをさせないように、また気持ちよく過ごせるように、利用者の意見を聞くとともに、職員も常に室温や温度に配慮し、花や飾り付けなどをして、心地よい環境づくりに努めている。	居間兼食堂の中央に台所があり、昔ながらの食器棚等があつて、家庭的な雰囲気になっている。室温の調整や利用者の動線に配慮したり、利用者が作成したカレンダーや習字等の作品、季節の物を飾ったりして、利用者が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できるだけ利用者同士が仲良く交流でき、楽しく過ごせるよう配置を考え、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の懐かしい写真や、好きな動物の写真を飾るとともに、馴染みのものを持参してもらい、居心地良く過ごせるよう工夫している。	元温泉旅館であつたことから、畳の部屋もあり、家庭的で落ち着いた雰囲気の居室となっている。入所時に利用者や家族と相談しながら馴染みの家具や愛用の小物、家族の写真等を持ち込んで飾ったりして、個々に合わせて、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどに表札を掲示して、利用者が迷わず、安全に過ごせるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名：2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、ホールに基本理念、基本目標を掲示し、職員全員が1日に何度も確認し、意識を持ってサービス提供に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年1回、地元の小学校跡地において母体法人系列の学校法人と一緒にお祭りを開催し、大勢の地域住民が参加してくれている。また、地域での体操に参加したり、花見や敬老会に参加して、交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が買い物や外食に出かけたり、事業所や母体法人の行事などの機会を通じて地域住民と交流し、認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所運営や利用者の状況などを詳細に報告し、利用者や、地住住民、行政代表の委員から様々な意見を出してもらい、畑作業や防災対策等、サービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者に運営推進会議に参加してもらい、また、困ったことなどは、その都度町担当者や、地域包括支援センターに相談している。また、年2回開催される町のグループホーム連絡会にも参加して、意見交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は母体法人内外の研修に参加し、身体拘束をしないケアについて学習するとともに、代表が母体法人の身体拘束委員会に参加して、伝達講習をしている。日中は玄関の施錠はせず、安全に配慮しながら、利用者が自由に行動できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止についての勉強会などに参加して、理解を深めている。また、職員間でコミュニケーションをとり、虐待につながるようなストレスの軽減や、メンタルの維持にも気を付けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、勉強会、研修会に参加して学習するとともに、必要に応じて行政担当者の助言も得ながら、制度が活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や支援内容について十分時間をかけて説明し、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を置いたり、第三者委員を委嘱するなど、いつでも意見や要望を出してもらえるようにしている。また、2ヶ月に1回の事業所便りや、ケアプラン更新時などでは、意見や要望を出してもらえるよう呼びかけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との個人面談を年2回行っている。他にも個々に話を聞いたり、職員会の中で意見が言える環境にある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の消化や休憩時間の確保等、職員が働きやすい環境をつくるために、職員が管理者に話しやすい距離感を保つよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に資格取得を勧めたり、機会あるごとに内外の研修会へ参加できるよう、勤務扱いにする配慮を行い、職員資質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町のグループホーム連絡協議会の勉強会などに参加したり、他の事業所との交流を通じて、サービスの向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや生活環境、故郷の思い出などを十分聞き取り、職員間で共有するとともに、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見を傾聴し、時間をかけて聞き取りを行って、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望や情報をしっかりと聞き取り、必要なサービス提供の検討や、対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者と家事、食事、買い物、趣味活動などを一緒にすることにより、時間を共有し、協力し合いながら生活を送ることで、信頼関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況を伝え、家族に本人に関する困りごとを相談して、アドバイスを得ている。2ヶ月毎に担当職員から写真入りの便りを送り、利用者の様子を身近に感じてもらえるように努めている。手紙を書ける利用者には自分で書いてもらい、一緒に発送している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で行きつけの美容院に行ったり、故郷へのドライブにでかけたりと、楽しめる機会をつくるよう支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際には同じテーブルを囲み、毎日利用者全員で体操を行い、行事なども全員参加に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長引き退所となっても、経過を見守る支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日々のケアの中で本人の思いや暮らし方の希望を聞くように心がけ、把握に努めている。また、機嫌や表情の変化などにも気を配り、職員同士で話し合いながら、本人の思いや暮らし方の希望について検討している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時には家族、本人に十分な聞き取りや、問いかけることで、いろいろな情報の把握に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	部署会、介護記録申し送り、連絡簿などを活用して、職員間の情報共有を図り、利用者一人ひとりの状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の訪問時に意見をもらい、担当者会議を開催して、3ヶ月毎にケアプランを更新している。本人、家族の意向に沿い、本人に最も適切なケアプランとなるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきの情報を職員全員で共有して、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズを把握し、できるだけサービスに反映するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での買い物、地区開催の行事、学校で開催される祭りなどへの参加を通じて、利用者が日々楽しく、豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が月2回あり、必要に応じて歯科医師にも往診してもらって健康維持の環境をつくるとともに、状態の異変時には、職員が付き添って医療機関を受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の看護師の訪問看護が毎週あり、利用者に変わったことがあれば、その都度相談して、連携を密にとり健康維持に努めるとともに、適切な指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には、情報提供書のほか、伝わりにくい部分は同行職員から直接説明している。入院後も、電話連絡で経過を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に重度化への対応方針を説明し、十分な理解が得られるようにしている。また、事業所が遠隔地にある特性についても納得してもらい、家族の協力が必要なことと、事業所支援の限界についての理解をお願いしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、母体法人内外の研修会などに参加して、急変時などに慌てないよう、実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間、昼間を想定して、避難消防訓練を年2回実施している。また、運営推進会議でも災害時の対応についてアドバイスを得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライドを守り、その人らしい生活ができるよう配慮するとともに、機会あるごとに、職員間で言葉かけや、利用者との関わり方について話し合っている。また、不適切なケアが見られたときには、管理者がその都度指導している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給にも選択肢を入れ、食事メニューも事前には作らず、日々利用者の希望に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を大切にし、個々のペースで過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを職員と一緒に考えたり、2ヶ月に一度散髪をしたりして、身だしなみを整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけ利用者の好みの食事が提供できるようにし、食事の準備や配膳、下膳、食器洗いなどを利用者と一緒に行うよう、声をかけている。職員も一緒に食事をとり、会話が弾む楽しい時間になるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をチェックシートで確認し、必要ときは形態を変えて、必要量を摂取してもらえるように工夫して、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力を見極め、声掛け、見守り介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、利用者一人ひとりの習慣に合わせて、声掛けや時間誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の体操、水分摂取を意識して、便秘の予防に努めている。また、チェック表を活用して薬を調整し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる範囲で利用者の希望に合わせた時間帯に入浴したり、また、入浴剤を使用したりして、入浴を楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の心身状態を把握し、無理のないように安眠や休息ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が確実に服薬の情報を把握し、申し送りや職員会で再確認したうえで、症状の変化も見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味、楽しみを日ごろの関わりの中から把握し、職員間で共有して、利用者一人ひとりの気分転換につなげている。また、声掛けにより、個々に合った作業にも参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地理的な制約があるため、極力事業所にこもらないよう機会あるごとに外出支援をし、家族にも協力してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持、使用についての支援をしていきたいが、利用者の状態や家族の要望などもあり、できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望するときには、電話を掛ける支援もしているが、積極的な支援には取り組めていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内で不快な思いをさせないように、また気持ちよく過ごせるように、利用者の意見を聞くとともに、職員も常に室温や温度に配慮し、花や飾り付けなどをして、心地よい環境づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できるだけ利用者同士が仲良く交流でき、楽しく過ごせるよう配置を考え、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の懐かしい写真や、好きな動物の写真を飾るとともに、馴染みのものを持参してもらい、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどに表札を掲示して、利用者が迷わず、安全に過ごせるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				